

第2回甲賀市子ども・子育て応援団会議

平成30年12月19日（水）10:00～11:30

別館会議室203

1、開会

2、市民憲章唱和

3、あいさつ【こども政策部 寺田部長】

みなさまおはようございます。

本日は、年末の大変お忙しいところ、本年度第2回目となります「甲賀市子ども・子育て応援団会議」にご出席を賜り誠に有難うございます。

また、平素から市政の推進、とりわけ児童福祉の分野におきまして、それぞれのお立場で格別のご支援を賜っておりますこと、重ねてお礼申しあげます。

さて、平成30年も、残すところ10日あまりとなりました。毎年恒例の今年の世相を表す漢字は「災」でありました。今年も、全国各地で、地震、豪雨、台風、猛暑など自然災害が多く発生し、改めて自然脅威を実感させられたことから、選ばれたものと思います。

平成30年の子どもに関わる話題をふり返りますと、スポーツ界では、若い世代の活躍など明るい話題もありましたが、一方で、児童への虐待や貧困、事故などのニュースが連日マスコミで報じられているように、子どもたちにも多くの「災」がふりかかった1年になってしまったと感じています。

もちろん、甲賀市においても、子ども、子育て世代を取り巻く環境は厳しいものがあります。しかしどんな環境であっても、まちの未来を担うのは、子どもたちであり、子どもたちが、健やかに成長することは、すべての市民の願いであり、また、市の責務であると感じています。前回の会議においても説明をさせていただきましたとおり、甲賀市の具体的な子ども・子育て支援施策については、「甲賀市子ども・子育て応援団支援事業計画」に基づき、総合的かつ計画的に推進しています。その計画も来年度最終年を迎え、新たな計画の作成を今年度スタートさせたところです。

その新しい計画が、甲賀市の子ども、そして子育て世代のみなさんに夢と希望を抱かせることができる、実のあるものとなりますように、委員の皆様が培って来られました、ご経験、知識を、どうか甲賀市の子ども・子育ての推進にお貸しいただきたいと思っております。

3、議事内容

発言者	内容
大橋会長	皆様、おはようございます。年の瀬のせまった忙しい時期ではございますが、本日もどうぞよろしく願いいたします。それでは、議事に入らせていただきますが、その前に、会議の成立について、事務局から報告いたします。
事務局	本日の会議の成立についてご報告させていただきます。 本会議条例第6条第2項では、「会議は委員の過半数が出席しなければ

	<p>開くことができない。」となっております。</p> <p>本日の会議には、委員総数19人中15人の委員にご出席いただいておりますことから、過半数の出席があり、本会議が成立していることをご報告いたします。</p> <p>また、本会議は附属機関と位置づけておりますことから、会議につきましては原則公開としておりますとともに、ホームページ等で議事録を公開させていただきます。</p> <p>また、議事録の作成にあたり、本会議を録音させていただきますと共に、議事録についてはご発言をいただきました委員の方の氏名も併せて掲載させていただきたいと思っておりますので、ご了承願います。</p> <p>以上で報告を終わります。</p>
大橋会長	<p>それでは、次第に基づき議事をすすめます。まず、資料の確認を事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>本日の資料は事前に送付しております「資料1 甲賀市子ども・子育てニーズ調査の考え方」次期甲賀市子ども・子育て応援団支援事業計画策定に係るニーズ調査の就学前児童用、小学生用となります。</p> <p>その他、本日机に配置させていただきました「次第」と「資料A第2期甲賀市子ども・子育て応援団支援事業計画について調査票の設問構成、ニーズ調査についての意見・提案票」となります。</p> <p>資料はございますか。</p>
大橋会長	<p>資料についてよろしいでしょうか</p> <p>それでは次第に基づき議事を進めてまいりたいと思っております。</p> <p>まず報告事項について事務局よりお願いします。</p>
事務局	<p>それでは報告事項について説明いたします。</p> <p>「資料A第2期甲賀市子ども・子育て応援団支援事業計画について」ご説明いたします。</p> <p>平成27年度に子ども・子育て支援新制度がスタートし、本市では、子ども・子育て応援団支援事業計画を策定し、子育て施策の推進を図ってきました。今回、政策動向や現在の子ども・子育てをめぐる状況をふまえ、平成32年度から5か年を計画期間とする第2期甲賀市子ども・子育て応援団支援事業計画を策定するものです。</p> <p>計画の位置づけとしましては、第2次総合計画に、子育て安心プランや放課後子ども新総合プランなどを併せ、第2期甲賀市子ども・子育て応援団支援事業計画となります。</p> <p>○甲賀市において取り組むべき子ども・子育て支援施策を総合的かつ計画的に推進するための計画</p> <p>○甲賀市制の最上位計画である甲賀市総合計画をはじめとして、甲賀市が策定する他の構想・計画・指針等と整合した計画</p> <p>○子ども・子育て支援法第61条第1項に規定される子ども・子育て支援事業計画及び次世代育成支援対策推進法第8条第1項に規定される市</p>

町村行動計画の位置づけを含む計画となっています。

この計画の策定にあたり

(1) 附属機関として

① 甲賀市子ども・子育て応援団会議

・平成29年4月1日 条例設置

② 甲賀市子ども・子育て応援団支援事業計画策定検討委員会

・平成30年6月11日 要綱設置

(2) 庁内検討組織

① 甲賀市子ども・子育て応援団支援事業計画庁内検討委員会

・平成29年9月1日 規程設置

これは市役所職員で構成しています。

計画策定の行程としましては、

◆ニーズ調査の実施

◆教育・保育提供区域の設定

◆「量の見込み」の算出

◆計画の「基本的な考え方」の決定

◆確保の内容、実施時期の設定

◆パブリックコメントの実施

◆県との協議

◆策定（平成32年2月末予定）

としています。計画策定までのスケジュールとしては、

平成31年 1月 ニーズ調査実施

平成31年 3月 ニーズ調査集計

平成31年 7月 事業量、確保策の検討

平成31年 9月 計画原案検討

平成31年11月 パブリックコメント実施

平成32年 2月 計画策定

以上となっています。

8月の応援団会議開催以降、それぞれの委員会を開催しています。

10月9日（火）甲賀市子ども・子育て応援団支援事業計画策定支援業務プロポーザル選定委員会

選定委員：甲賀市子ども・子育て応援団支援事業計画策定検討委員会委員3名（学識経験者、子育て支援に関する事業に従事する者、主任児童委員）甲賀市役所教育委員会事務局部長、こども政策部長、こども政策部次長

参加業者：4社

選定結果：株式会社ぎょうせい 関西支社に決定、

業務期間：平成30年10月17日～平成32年3月31日

本日は柊ぎょうせい様より、高尾氏、井川氏に同席いただいています。

	<p>(紹介)</p> <p>甲賀市子ども・子育て応援団支援事業計画策定検討委員会の開催について</p> <p>10月9日(火) (委員:13名)</p> <p>第1回甲賀市子ども・子育て応援団支援事業計画策定検討委員会開催協議事項:①甲賀市子ども・子育て応援団支援事業計画策定検討委員会及び委員会の運営について</p> <p>②甲賀市子ども・子育て応援団支援事業計画の概要について</p> <p>③第2期子ども・子育て支援事業計画について</p> <p>12月4日(火) (委員:10名)</p> <p>第2回甲賀市子ども・子育て応援団支援事業計画策定検討委員会開催協議事項:①甲賀市子ども・子育てニーズ調査の考え方について</p> <p>②甲賀市子ども・子育て応援団支援事業計画策定に係るニーズ調査について</p> <p>甲賀市子ども・子育て応援団支援事業計画庁内検討委員会の開催について</p> <p>11月21日(水) (委員:12名) 市職員関係課12名で構成</p> <p>協議事項:①甲賀市子ども・子育てニーズ調査の考え方について</p> <p>②甲賀市子ども・子育て応援団支援事業計画策定に係るニーズ調査について</p> <p>以上が会議及び委員会の開催状況の報告を終わります。</p>
大橋会長	<p>本件についてご質問等はございますか</p> <p>報告事項なのでよろしいですか</p> <p>次に「甲賀市子ども・子育てニーズ調査の考え方」について事務局より説明をお願いします</p>
事務局	<p>※資料参照</p> <p>《資料1についての説明》</p>
大橋会長	<p>ただいま、事務局から「甲賀市子ども・子育てニーズ調査の考え方」について説明がありました</p> <p>つづいてニーズ調査の原案について事務局より説明をお願いいたします</p>
事務局	<p>※資料参照</p> <p>《甲賀市子ども・子育てニーズ調査の原案について説明》</p> <p>《就学前児童調査の設問構成》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・●は国の示す必須項目 ・○は国のモデル調査票掲載項目 ・「独自」は市独自の調査項目 <p>《小学生児童調査票の設問構成》</p>

	<p>・国の示す必須項目はないため、すべての設問について市の独自項目</p>
大橋会長	<p>ここで皆様からのご意見を頂戴したいと思いますが、先に事前に委員の皆様や計画策定検討委員会の皆様からご意見をいただいている件について事務局から報告し、みなさまのご意見についてはその後お願いいたします。</p>
事務局	<p>事前に委員からご意見をいただいている、「第2期甲賀市子ども・子育て応援団支援事業計画」策定に係るニーズ調査についての意見及び提案票をごらんください。</p> <p>就学前児童用では、 島田委員より、充実した事業計画を策定するにはアンケートに多くの方のご協力が必要です。市では郵送によるアンケートをお考えと思いますが、子育て支援センターなど公共施設で幅広くアンケートにご協力をいただくことも一つの方法ではないかと思いますがいかがでしょうか。（重複を避ける手立てが必要かと思いますが）事業計画には外国籍の方のご意見も反映されることが求められます。甲賀市には多数の外国籍の方が生活をされており、その国籍は38か国に及びます。それぞれの国に対応することは難しいかもしれませんが翻訳など配慮をいただければアンケートに答えやすくなるのではないのでしょうか。とのご意見をいただいております。</p> <p>吉川委員より、推計子ども人口はどのような数字を基に算出される数字ですか。（全くの予想であり乗算是非はあると思いますが、転入・転出のここ数年の傾向による予測はある程度反映が必要だと思います。）とのご意見をいただいております。</p> <p>策定検討委員会からの意見P6問17では、「ただ3つに○を求めるのではなく、第1から第3まで順位をつけて調査すべきではないか。」 P2問12「不適切な子育て防止」という表現だけでは質問の主旨が伝わりにくい。注釈をつけて具体的にどのようなケースが不適切にあたるのかを示す必要がある。</p> <p>P16問46回答項目に「外国籍の子どもへの日本語教室の開催」と「地域の子どもや大人が交流できる場の提供」を追加。 事務局から誤字等の修正を追加しています。</p> <p>小学生児童用について P1問3「養護学校」という名称を「特別支援学校」に変更 P9問25「体罰」を「たたくなどの行為」に変更 P9問29「思わない」方への対策を講じていくため「なぜそう思わないのか」の設問を追加しています。</p>
大橋会長	<p>それではそれぞれのご意見やお立場から委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。</p>

田中委員	第1期のアンケートでは回収率はどのくらいあったのでしょうか
事務局	46%でありました。
田中委員	これは高い回収率であると思うが、どのような工夫をされましたか。
事務局	工夫はとくにはしていないのですが、調査内容の関心が高かったのではないかと考えています。
田中委員	今回のアンケートの目標回収率はどのくらいですか。また、「多様な」はキーポイントで、回収率が高くないと多様性は調査できないのではと思っています。
事務局	目標は前回は上回る回収率を目指しています。
田中委員	印象として、アンケートは長いと感じました。同じ子育て世代として、はたしてきちんと回答できるのか。最後のほうはいい加減になってしまうのではないか。アンケートの取り方に工夫がいると思います。
大橋会長	今の田中委員のご意見は項目を減らすということのご意見でしょうか。
田中委員	アンケートの内容は策定委員会で吟味したものであると思っています。
大橋会長	委員会へご意見を伝えるということによろしいでしょうか。
嶋村委員	全体的にみて量が多いと感じます。アンケート後半の精度が心配であり、少なくするというか、少なく見せるというのはどうか。方法として、プレアンケートで協力してもらった人に内容について感想を聞いてみるのはどうか。大きいサイズのアンケートは回収率が高いといわれています。色紙でも「何とかしなくては」と思ってもらえる傾向にあります。就学前のP2、問12のところ、他にも2点加えたらいいのではないかと思います。1つは経済的な困窮もあるので、「経済的支援」はあるのではないのでしょうか。2つめは「保育園の体制の充実」です。P3問13-1に「保育施設に入れなため」を加えてはどうでしょうか。
大橋会長	ただいま問12について2点、「経済的な支援」、「保育園の日常的な体制」これは人間的なものでしょうか。
嶋村委員	そうですね。保育時間や幼児保育のことです。
大橋会長	これまで子ども子育て応援団会議でされてきた中の問題です。待機児童のことでしょうか。甲賀市は地域が広く、園の許容人数と希望人数はそれだけ見れば変わらないと思いますが、入りたいところに入れ

	ないということでしょうか。
嶋村委員	全体のバランスもあるので事務局へ一任したい。
大橋会長	今のご意見について他にご意見ございませんか。 事務局に一任するということでもよろしくお願ひします。 他にご意見等ございませんか。
富岡委員	両方のアンケートでP 1 問 7 「この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください」とあるが、これはどのような意図で聞いているのでしょうか。もしひとり親であることなら、ひとり親に対しての配慮を少しすべきでないでしょうか。 甲賀市も母子父子家庭が多く、生活困窮者や要保護家庭のほとんどがひとり親家庭であります。民生委員としてもいろいろ苦勞していますが、この調査で、これだけの質問で明確になるのでしょうか。
大橋会長	事務局お願ひします。フェイスシートがあればこのままこの内容で精査していくのでしょうか。
富岡委員	一般的な両親のいる家と、ひとり親をどのように抽出していくのでしょうか。 住民票上で抽出するのか、それによって大分変わってくると思いますが。 現実子育てで困っている、あるいは苦勞しておられるのは、ひとり親家庭に多くおられることは間違いないです。
株ぎょうせい	伺う意図についての設問のことと、抽出の際にひとり親を考慮しているのか、ということでしょうか。
大橋会長	問 7 があるということは、この方たちへの支援をしっかりと行っているのかと聞いているのでしょうか。 それに対してぎょうせいさんは、抽出についての発言をされたのでしょうか。
株ぎょうせい	富岡委員の質問として、ひとつは「配偶者」の有無を確認する質問がありますが、これに関してもっと詳しく把握する質問が必要ではないかという質問と、もうひとつはひとり親世帯の抽出をするような、アンケートの抽出方法を市は考えているのかと質問されたと認識しましたが。
事務局	問 7 の調査は家族の状況、配偶者がいらっしゃるのかどうかを聞いています。のちの調査項目の中でひとり親の場合は、例えば、就学前の問 1 3 で「父親または母親で該当する欄についてご記入ください」という形で一定の配慮をしながら、最終的に集計の中で配偶者がおられる家庭の状況と、ひとり親家庭の状況の課題や施策を考えていく上での材料としていきたいと考えます。
大橋会長	フェイスシートをして結果がでていくことで、そこから支援をしていくという解釈でもよろしいでしょうか。

	<p>今のご意見をふまえたうえで、項目として「これはいる・いない・考えてください」など策定委員会へ意見を伝達して検討していただきたいと思えます。</p>
鹿田委員	<p>子どもの育ちについての質問が多いですが、ご家庭自身が順調か不安定かは、質問をもうけずに推測するという考え方でいいのでしょうか。そもそも金銭的に困っていないかという質問を、もうける必要があるのではないのでしょうか。細かくきくところはありますが、大前提をきかなくてよいのでしょうか。</p>
事務局	<p>項目を増やすということでしょうか。</p>
鹿田委員	<p>はじめのあたりに、困っていることはありますかなど入れてはどうでしょうか。</p>
事務局	<p>P14に子育てに関して不安や負担など感じているか、子育てに悩んでいることはあるかなどの項目があり、把握している部分もあるが1度検討させていただきます。</p>
鹿田委員	<p>支援のなかに入り込んでいるイメージがありましたが、順調であるか困っているかをきくところは子育てに入る前の段階でのことです。その部分が、アンケートの中であとになると薄れていくのではないかと。質問が気持ちを答えるものではなく、事実を答えるものなので、行政のほうでそぐわないのであればいいですが。</p>
大橋会長	<p>非常に大事な提案ではあるが、一方では難しい問題でもあります。経済的なことも人により感覚が違うので、そのあたりも十分に検討よろしくをお願いします。</p>
田中委員	<p>島田委員の提案で外国人へのアンケートについてですが、結局外国人対応のアンケートをするのかしないのかどちらでしたでしょうか。</p>
事務局	<p>アンケート自体は外国人の方を絞った形ではしていません。全ての住民票からランダムに抽出しています。言葉が分からない方には、市役所にいる翻訳職員で対応していけたらと考えています。アンケートについて、子育て支援センターなどの公共施設で協力できないか、という提案をいただきました。アンケートだけでは見えてこない部分もあり、実際の利用者の声を聞けたらと考えています。吉川委員から、5年間の推計を出すのに工夫が必要でないかという提案をいただきました。今後5年間の人口推移は長いスパンではありますが、転入・転出含めできる限り実態に近づけるように工夫していきたいと思えます。</p>
富岡委員	<p>子育てサロンに民生委員もかかわり月1回開催しています。支援センターではひとり親の交流事業など実施していますが、せつかくするならその調査をすることも考えていけたら、実態がつかめるのではないかと思います。</p>

	生活困窮者の支援法が制定されましたが、生活困窮の連鎖をどこかで止めないといけません。その影響を受けるのが子どもであったりするので、重点的に考えていってほしいです。
大橋会長	1つ私の意見をのべてよいでしょうか。 先程量が多いという話が出ていましたが、最初にある、「調査ご協力のお願い」の鏡文7行目に、「子どもたちは、甲賀市の将来を担う宝です。地域全体で子どもの成長を応援していけるよう、調査結果を次期計画に反映させていきたいと考えています。」という文章がありますが、アンケートを書こうという気持ちになるために、もう少し具体的に共感を得るような文章になるようご検討ください。
鹿田委員	裏面のイラストわかりやすいと思います。
大橋会長	それでは、出していただきましたご意見については十分にニーズ調査の内容に反映していただきますようよろしくお願いします。 続きまして、その他「今後のスケジュールについて」事務局からお願いします。
事務局	今後のスケジュールについて説明させていただきます。今回いただきましたご意見をもとに来年1月にニーズ調査を実施し、次回3月の応援団会議で結果をご報告させていただきたいと思います。日程等が決まりしだい委員の皆様にお伝えさせていただきますので、よろしくお願いします。ニーズ調査については、発送する前に各委員さんには最終こういう案になりましたというのを送らせていただきます。
大橋会長	今後のスケジュールについて説明いただきました。以上で、本日の議題は全て終了いたしました。 委員の皆様には、それぞれのお立場からご意見いただき、また円滑な議事の運営にご協力いただき、ありがとうございました。 それでは、「進行」を事務局にお返しいたします
事務局	大橋会長、ありがとうございました。委員の皆様におかれましても、会議の中で、多くのご意見をいただき有難うございました。事務局で協議・検討し、最終的には委員の皆様計画の確認をよろしくお願いします。

4、副会長挨拶 【嘉郷副会長】

長時間大変慎重審議いただきまして、誠にありがとうございました。また、皆様から貴重なご意見をいただきまして、今後反映させていただきたいと思っております。

本日は大変ご苦勞様でございました。ありがとうございました。

5、その他 【事務局】

